

「ハラル化粧品」開発加速

動物やアルコールを原料にしてはいけないなど厳しい戒律を持つムスリム（イスラム教徒）向けの「ハラル化粧品」の開発が県内で加速している。国内市場はまだ発展途上だが、東京五輪・パラリンピックなどを控え、県保健医療部業務課は「成長が見込まれる市場へのいち早い参入を支援したい」と話している。

【木村政彦】

イスラム教で許された原料のみ使用

「ハラル」はアラビ 計もある。

ア語で「許されたもの」を意味する。同教が禁忌とする動物由来の油やアルコールなどを原料に含まない化粧品や食品などの「ハラル商 品」には、国外に複数ある認証機関が「お墨 付き」を与える仕組みがあり、ムスリムが商 品を選ぶ重要な基準となる。

同課によると、来日するムスリムの国内消費は、来日外国人全体の5%程度を占めるとみられる。東京五輪・パラリンピックが開催される20年には約100万人のムスリムが訪日し、約1600億円 の市場になるという推



イスラム教徒向けの化粧品を開発する石田香粧の石田尚志社長
—戸田市川岸の同社工場で

五輪控え県「成長市場参入を支援」

品製造会社「石田香粧」（石田尚志社長）は、昨年4月から戸田市内でハラル向けの洗顔料と化粧水、日焼け止めを開発している。試供品もすでに製作済みで、来年中にはハラル専用工場も建設する。石田社長は「研修会や発表会などで展示するとすぐにでも買いたいという声をいただく。今後は販売ルートを開拓していく」と手応えを語る。同課では「ハラルという食品に注目が集まりがちだが、化粧品の需要も今後確実に増える。安心して使える化粧品で来日ムスリムをおもてなししたい」と話している。

東京都台東区の化粧